



index

特集 ● 肝細胞がんとその治療法

集 ● 薬の飲み方

トピックス

- 食育を考えるワークショップ・江南
- がん相談支援室のご案内

イベント紹介

- アルパ演奏会
- 公開医療福祉講座
- 百年草コンサート
- リハビリテーション科保護者交流会
- 高校生オリジナル看護1日インターンシップ

お知らせ

- 公開医療福祉講座のお知らせ
- 「股関節術後の患者さんと医療従事者との情報交換会」のご案内
- 保険証の確認について
- 面会のご案内
- 編集後記
- 診療日カレンダー

病院理念

- 一.私たちは「患者さん中心の医療」を実践します
- 一.私たちは患者さんの安心と信頼を得るように努力します
- 一.私たちは医療人としての誇りと自信を持って行動します

肝細胞がんとその治療法

肝がんは肺、胃、大腸に続く4番目に多いがんで年間約35,000人が肝がんで亡くなっております。肝がんにはいろいろな種類がありますが、その中で最も多い肝細胞がんについてご説明していきます。

原因

日本の肝細胞がんの患者さんの90%近くはB型肝炎ウイルスやC型肝炎ウイルスが原因となっています。その他の原因ではアルコール性肝硬変、非アルコール性脂肪肝炎(NASH)、自己免疫性肝炎や胆汁性肝硬変の患者さんなどに稀に起こります。

症状

肝臓は「沈黙の臓器」とも言われ、肝がんが発生しても自覚症状は少ないため、多くの患者さんは慢性肝炎や肝硬変の治療中に検査によって無症状のうちに肝がんを発見されます。なかには、上腹部のしこりや痛みや黄疸といった症状によりみつかることもあります。これらはかなり病状が進んでからの症状ですので、症状出現前の早期発見が大切です。担当医のすすめに従って定期的な検査を受けるように心がけてください。

診断

肝がんが発生しても一般の血液検査に変化が現れないことが多く、慢性肝炎や肝硬変の患者さんに対して、腫瘍マーカーや腹部超音波検査によってがんのスクリーニングが行われています。腫瘍マーカーとしては、アルファフェトプロテイン(AFP)、AFP-L3分画、PIVKA-IIが用いられます。確定診断には画像診断が必須です。腹部超音波検査のほか、CTやMRIが有用です。

治療

たまかに内科的治療、外科的治療のふたつがあります。肝硬変を合併している症例が多いため、がんの進行度と肝硬変の程度の2つを考慮して慎重に治療方針を決める必要があります。

<外科的治療>

肝切除

外科的に腫瘍の切除を行います。比較的肝予備能の良い患者さんが対象です。

<内科的治療>

経皮的治療

ラジオ波焼灼療法が多く用いられています。超音波やCTで位置を確認しながら治療用の針(電極針)で経皮的に腫瘍を穿刺し、熱凝固により腫瘍を壊死に陥らせます。

肝動脈塞栓療法(TAE)

カテーテルとよばれる細い管を使って血管造影を行い、腫瘍に栄養を送っている血管を確認し、抗がん剤をリピオドールという造影剤の一種と混ぜたものを注入した後、ゼラチン粒という塞栓剤で栄養血管をつめることによりがん細胞を壊死させます。

化学療法

肝動脈にカテーテルを用いて直接抗がん剤を流す肝動注化学療法と、全身化学療法(内服薬や静脈内投与により全身に抗がん剤をいきわたらせる)があります。

再発・その他

肝がんは慢性肝炎や肝硬変を背景として発生する腫瘍であり、多発したり再発したりすることの多い腫瘍です。そのため、何度も治療を繰り返すことが多く、肝予備能とのバランスを考えながらその都度もっとも適した治療を行う必要があります。



消化器内科部長
堤 靖彦

薬の飲み方

普段、どんな薬を服用されていますか？薬の飲み方は、きちんと守っていただいていますか？

飲み方を間違えると薬の効果が無かったり、効き過ぎてしまったり、あるいは重大な副作用がでてしまうこともあります。

薬は、「食後」に飲むことが多いですね。「食後」は、食事後30分以内に服用するということです。飲み忘れを防ぐ意味で、食事の時間を目安にすることも多いですが、薬によっては、食後でないとう吸収が悪くなったり、副作用が出たりするものがあります。

「食前」は食事をする30分程前です。「食直前」は服用したら食事をするという目安でいいかと思います。この飲み方の薬は、食事の前でないとう効果がでないので必ず飲み方を守る必要があります。

「食間」は食後2時間程度の空腹時です。食事の影響を受ける薬がこの時間での服用となるので、服用後のおやつは少し控えたほうが良いかもしれません。また、一番飲み忘れの多い時間でもあります。

最近では、「起床時」に服用する薬や、週1回だけ服用する薬もあります。薬の飲み方は、薬が安全にまた、効果が最大限発揮できるよう工夫されています。そのためには正しい飲み方が必要です。薬の飲み方で疑問に思うことや、飲み忘れなど困ったことがあれば気軽に薬剤師にご相談ください。



主任薬剤師
高田 薫

第1回 食育を考えるワークショップ・江南

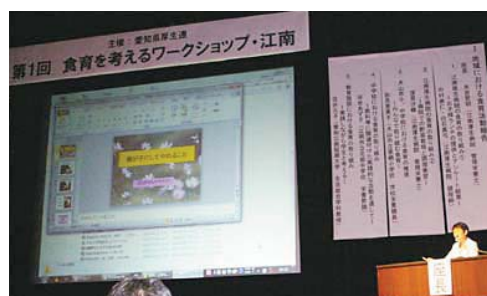
平成24年9月1日(土)江南市民文化会館において愛知県厚生連主催の「第1回食育を考えるワークショップ・江南」が開催され、厚生連職員、江南保健所管内栄養士および地域住民約300名が参加しました。

尾崎隆男江南厚生病院こども医療センター長の開会の辞に始まり、第1部の「地域における食育活動報告」では、江南厚生病院の中村崇仁調理師・白石真弓調理師が「江南厚生病院の食育の取り組み①～お子様ランチの提供とアンケート結果～」、

深見沙織管理栄養士が「江南厚生病院の食育の取り組み②～病院での野菜栽培と調理実習～」と題した発表を行い、その他に犬山市、江南市、愛知江南短期大学各1題の食育活動報告がありました。

第2部の特別講演では、西村直子江南厚生病院こども医療センター副センター長が座長を務め、「弁当の日」を世の中に広めメディアでもご活躍の竹下和男先生に「食育と健全育成」と題してご講演頂きました。

竹下先生のお話は、会場内が何度も涙で溢れる場面もあり、食育の大切さを再認識する良い機会となりました。最後に長谷川しとみ江南厚生病院看護部長の閉会の辞により会は盛況のうちに終了いたしました。



アルパ演奏会

6月11日(月)に東海地方を中心に活躍中のアルパ奏者奥村陽子さんと、アルパ教室「アルパスタジオSOI」に所属するメンバーによる演奏会が行われました。パラグアイの民族楽器「アルパ」のメロディに皆さん大変魅了されていました。



6月11日

公開医療福祉講座

6月20日(水)「障がいがあっても住み慣れた自宅で過ごすには…」というテーマで医療福祉相談室の伊藤裕基子主任看護師より、患者さんが住み慣れた自宅で過ごすための知恵や福祉制度における支援等についてお話しさせていただきました。

7月2日(月)「がん患者さんにご家族の希望をつなぐ緩和ケア」というテーマで祖父江正代がん看護専門看護師より、患者さんや家族の悩みや苦痛を和らげるための取り組みや緩和ケアについてお話しさせていただきました。

8月10日(金)「今、糖尿病の治療を見直そう」というテーマで内分泌・糖尿病内科の有吉陽部長より、食生活や生活習慣から患者さんが増加している糖尿病の予防と治療についてわかり易くお話しさせていただきました。

いずれも、多数の患者さんやご家族の方の参加があり、多くの方がメモを取るなど熱心に聞いてみえました。



6月20日・7月2日・8月10日

Event

イベント紹介

百年草コンサート

7月9日(月)に岐阜県を中心に活躍中の尉問バンド「百年草」による演奏会を開催しました。歌の合間にユーモアのあるお話も交え、皆さん楽しい時間を過ごしてみえました。



7月9日

リハビリテーション科 保護者交流会

6月30日(土)に毎年恒例の保護者交流会を開催しました。保護者をはじめ、地域小児関係の専門家、当院スタッフなど約40名が参加し、様々な意見交換ができました。保護者からは、また開催してほしいと好評をいただきました。



6月30日

第2回高校生オリジナル看護1日インターンシップ

8月21日・8月27日

「看護」を志す地域の高校生延べ84名が参加し、BLSの実習・手指衛生の演習や患者さんとの触れ合いから多くの看護を体験しました。貴重な体験で「看護の道」への理解も深まり、有意義な夏休みの1日となりました。



がん相談支援室のご案内

「2人に1人はがんにかかる」と言われるほど、がん患者さんは年々増えています。がん患者さんおよびそのご家族は、がんと診断されたときから様々な不安や悩みを抱えて生活されていると思います。

そういったがん患者さんあるいは、そのご家族のがん医療に関する不安や悩みにお応えし、少しでも安心してがん医療を受けられるようお手伝いさせていただくために、7月1日より医療福祉相談室に「がん相談支援室」を開設いたしました。

ご希望の方は、がん相談支援室までご連絡ください。

●対象者

がん患者さんあるいは、そのご家族

●相談場所

医療福祉相談室内「がん相談支援室」

※2階 エスカレーター前

●主な担当者

ソーシャルワーカー、がん看護専門看護師が対応させていただきます

●相談内容例

- ・がんと診断され、今後の生活や治療に不安がある
- ・自分に合うがんの治療について詳しく聞きたい
- ・抗がん剤の治療やホルモン治療、放射線治療などのがん治療を受けるにあたり、その効果や副作用に不安がある
- ・がん治療に要する医療費や生活費などの経済的な悩みがある
- ・担当の医師や看護師との関係について悩んでいる
- ・手術後やがん治療後などに働けるか(学校に行けるか)不安がある
- ・がんの進行に伴う身体の症状による辛さがなかなか良くならない
- ・緩和ケア(症状を和らげること)病棟や緩和ケアチームについて詳しく知りたい
- ・家に帰りたい、外出したいがどのようにすればよいのか
- ・がんを予防したい、がんの再発を予防したいが、どのようにすればよいのか など

●相談方法と手順

相談方法には、面談、Eメール、電話、FAXがあります
相談時間は月曜日から金曜日の9時～16時までです



がん相談支援室

電話 0587-51-3346

FAX 0587-51-3317

Eメール gansodan@konan.jaaikosei.or.jp

相談手順等の詳細は当院のホームページをご覧ください。



2012年公開医療福祉講座のお知らせ

江南厚生病院では、地域住民の皆様向けに、医療や福祉に関する情報を提供していく目的で講座を開催します。今年度は、以下のような企画をしております。参加は自由ですので、どうぞお気軽にお越しください。

10月18日(木)	乳がん術後のホルモン療法	乳腺内分泌外科 部長 飛永 純一	場所 江南厚生病院 2階講堂 時間 13:30~14:30 お問い合わせ 医療福祉相談室まで TEL(0587)51-3333
11月15日(木)	冬場に注意したい感染症 ~インフルエンザウイルスと 感染性胃腸炎について~	感染管理認定看護師 師長 仲田 勝樹 大城 和人	
12月14日(金)	腰痛に対する運動療法	リハビリテーション科 理学療法士 鈴木 貴士・松永 崇裕	

「股関節術後の患者さんと医療従事者との情報交換会」のご案内

股関節術後の患者さんを対象に、医療従事者との情報交換を目的として以下の通り会を開催します。病院からのご案内が届いていない方で参加希望の方は、以下までお問い合わせください。会場の都合で先着100名までの参加とさせていただきます、それ以上の希望者があった場合は、同様の内容で改めて開催する予定です。

場所 江南厚生病院 2階講堂

日付 平成24年10月20日(土) **時間** 9:30~12:00

- 内容**
- ①股関節疾患の最新情報の提供(川崎医師)
 - ②リハビリテーションについて(リハビリテーション科)
 - ③質問タイム&情報交換の場

お問い合わせ 医療福祉相談室(野田・外山) **TEL** 0587-51-3333

●保険証の確認について

当院では毎月一度保険証の確認を行っています。外来受診の際は各外来受付か新患受付へ、入院中の方はスタッフステーションに保険証をご提示ください。なお、氏名、住所、電話番号等の変更があった場合もご提示をお願いいたします。

●面会のご案内

平日	15:00~20:00
土・日曜日・祝日	13:00~20:00

※4人床の面会は、同室の患者さんの迷惑にならないように談話コーナーなどをご利用ください。

※患者さんの安静は治療上大切です。容体によっては面会をお断りする場合があります。

編集後記

●これからはばらばらと過ごしやすい季節になりますので、健康管理のために体を動かしたり、気分転換を兼ねて紅葉を見に出かけたり、また、夜長に読書するなど、皆様方それぞれに、この季節を満喫して下さい。

2012年 診療日カレンダー

■ 休診日(第2・4・5土曜日は休診です) ● 午後休診

10月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

11月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

12月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24/31	25	26	27	28	29

●発行日/平成24年10月1日

●発行/JA愛知厚生連 江南厚生病院 広報委員会

〒483-8704 愛知県江南市高屋町大松原137番地 TEL(0587)51-3333 FAX(0587)51-3300